

東日本大震災における石巻の動物救護活動

Animal Rescue Activities in Ishinomaki following the Great East Japan Earthquake



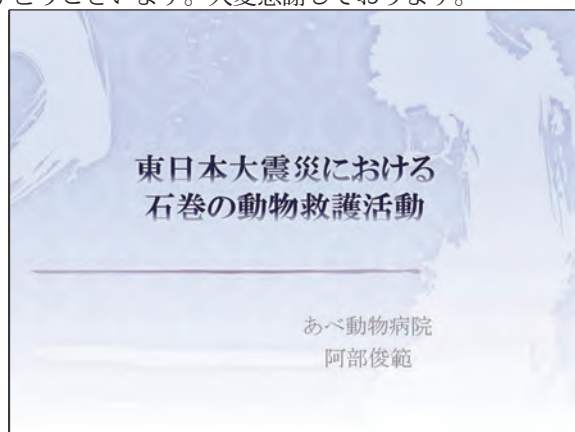
石巻市・あべ動物病院 院長・阿部 俊範

Toshinori ABE, Director, Abe Animal Hospital, Ishinomaki City

○阿部俊範先生

おはようございます。

このたびはこの会議にお呼びいただきまして、大変感謝しております。また、神戸からは石巻動物救護センターに、数多くの人的な、また物的な、また金銭的にも御援助をたくさんいただきまして、まことにありがとうございます。大変感謝しております。



【スライド1】



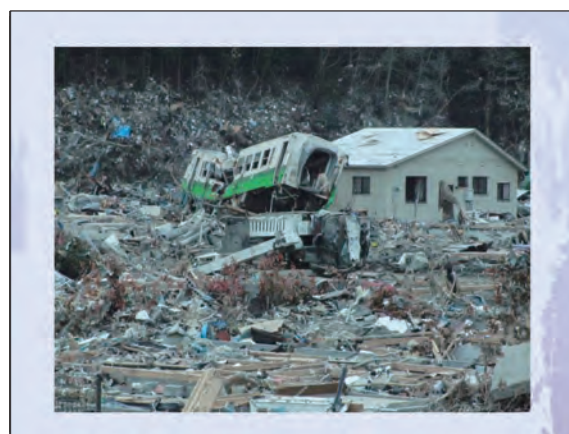
【スライド2】

それでは、きょうは東日本大震災における石巻の救護活動ということでお話しさせていただきます。これから先の考えるヒントにさせていただければなと思っております。【スライド1】

3月11日、東日本大震災が発生し、宮城県牡鹿半島沖を震源とした日本観測史上最大のマグニチュード9の巨大地震が起りました。そして、それに続く大津



【スライド3】



【スライド4】

波が石巻市街を襲いました。石巻市の沿岸はこのような状態になり、瓦れきと化してしまったわけです。

【スライド2】

また、女川町という役場、ここは駅前なんですけど社屋もなくなり、遠くのほうには電車が横たわっているのが見えると思いますが、ほとんど壊滅状態になってしまいました。【スライド3-4】

宮城県と言っても、こちらのほうに住んでおられるとなかなか地理的にはわからないと思うんですが、僕ら石巻獣医師会が担当している石巻市と東松島市、女川町、この2市1町が我々の管轄する範囲で、我々はこの動物たちを助けなければならないということで、石巻地区動物救護センターを立ち上げることになりました。

ところが、なかなかふたをあけてみなければわから

されていきます。

(ビデオ上映)

みんな、高いところ、エレベーターハウスの上みんな避難するわけです。

これは南浜町という別のところですけど、津波を受けた後はこのような瓦れきの山になってしまうと。皆さん、爆弾を投下された跡みたいだという話をよくされてました。



震災後3日目 動物病院前
【スライド 9】



震災後 3日目 動物病院エントランス
【スライド 10】

こういふことで震災を受けたわけですけど、あべ動物病院は海から6キロ離れているので、よもやこまでは津波は来ないと思っていました。実は夕方ぐらいから水位が上がり始めて、これは震災後3日目です。

水が引いたと言えどもまだこのぐらいあります。この水が大体1週間ぐらい引かないんです。ですが、とりあえず3日目の夕方から、エントランスもこんな状態です。このぐらい水が引かないと病院におりる気にならないです、水がいっぱいで。この夕方ぐらいにはもう少し水が引いたので、この日の夕方から自衛隊のボートが来始め、乗せていただいて近隣の中里小学校の避難所に物資を届け始めたというのが、避難所の巡回の始まりでした。【スライド 9-10】

震災後最初に行ったことは、自分の動物病院の入院患動物の避難救護です。自宅2階に動物たちを避難さ



【スライド 11】

入院動物たちの救護

- ◆ どこに避難するか
- ◆ 何を用意するか(10日分)
水、フード、ペットシート、クレート、キャンプ用品、乾電池(携帯電話用)、懐中電灯(人数分)太陽電池によるランプ、ストーブ、自転車。サランラップ、ラジオ。

【スライド 12】



【スライド 13】

せ、大型犬はベランダでおトイレをしてもらおうという格好で、10日間以上入院治療を行いました。水が引けてもヘドロが10センチ以上あるので、散歩は出来ませんでした。ライフラインは途絶のなか、電気が回復したのが10日目、水が出始めたのが16日目で、そうするとそれまで病院のクリーンナップなんかができない中で、3月15日から一応病院は水の中で開院し、被災動物を治療し始めました。【スライド 11-12】

13日の午後から避難所に行き始めましたが、多くの避難所で同行避難が行われていた。中里小学校自体も水の中に避難所があるわけですけど、仮設の橋を渡って教室に入ると、段ボールの上うつろな顔をした人た

ちがくの字になって寝ていました。

ところが、2クラス、ここでは動物可のところがありました。そういうところというのは非常にこうやって明るいです。やはり動物と一緒に避難するって精神的にもいいのだなと思いました。【スライド13】

また、こういう大型犬でもクレートという寝床に入れば大型犬でも同行避難ができるということがわかり、非常に同行避難というのは人にも動物にもいいのだなと思いました。ただ、そのためにはちゃんと動物を教育して、社会の一員としておかなければいけないということもあるんです。最初に運び込んだのが一般食とか、処方食、またペットシートとか猫砂です。猫は新聞紙で排尿をさせているとおしっこが出なくなっちゃうんです。猫砂を運び、また、結構おむつが必要とされていました。水はどこでもないので、人間と分け合うという格好であげていました。【スライド14】

幸い、宮城県は平成19年に県と協定を結んでおりました。また石巻は震災の半年前に協定を結んでいたの、救護センターを建てるのには結構市も積極的でした。あとは、まずやらなきゃいけないことというのは協定を結ぶことと、あとは動物病院の周りからまず救護していくということでしょうか。あと、ペットフードの調達の点で、宮城県仙台市までは来てるんだけど、ここから先に来ないんです。また、来るといっても、意外と震災で気がついたことは平等ということなんです。平等にやっていたくのはいいんですけど、被災のひどいところでは平等という不平等が横行するんです。そうすると、幾ら被災した動物が多くてもフードは一定量しか来ない。「みんな均一だ、何で石巻だけと」そう言われる不平等さを感じました。実は人もそのようでしたけども。

あとは、我々は市役所、保健所と連絡をとりながら、フードの調達をしました。意外とよかったのは、このボランティアセンターへ行くということが非常に被災状況を知る上でも、また避難所の場所、また動物の有無をチェックするのにもよかった。あと、大量の物資を預けるのにも当初、ボランティアセンターには人がいません、物もありませんでしたので、大量の物資をセンターに預けるのには有効でした。石巻ボランティアセンターというのは3月16日から開いたわけですけど、19日でもこれだけしか人がいないです。仙台にシャトルバスを出そうかと、そういう話が出るぐらい。物資も倉庫はがらがらなんです、この時点でも。こういうマップがあるので、これを見ながら避難所を回り始めた。そうすると、こうやって回るわけですけど、各

初期動物対応

- ◆ 一般食、処方食
- ◆ ペットシート、猫砂、おむつ
- ◆ 心臓病、白内障等の薬剤
- ◆ クレート
- ◆ 食器
- ◆ 水

【スライド14】

避難所の動物救護

- ◆ 県及び市町村と災害時における愛護動物の救護活動に関する協定書を締結
- ◆ 動物病院周辺の避難所動物救護
- ◆ ペットフードの調達
 - 日本ペットフード協会等からのフードを保健所へ要請
- ◆ 市町村役場・保健所と連絡
- ◆ 災害ボランティアセンターへ
 - ボランティアミーティング
 - 大量な物資はセンターへ

【スライド15】

災害ボランティアセンター



【スライド16】

避難所巡回



【スライド17】

避難所には動物も一緒にいると。そういうことで、非常に神戸の震災から16年を経て、動物地位もまた一歩進んだのかなと思いました。【スライド15-17】

といいながらも、避難所からだんだん動物が減ってきました。その原因の一つとしては、やはり愛護団体による県外への一時保護ということで、これが一つの問題でした。なかなか県外に連れて行かれると飼い主さんとは会えません。これからは、これをちょっと考えないといけないと思います。地元シェルターをつくって、預かっていただければと団体の方にはお願いしたいなと思いました。また、しつけがうまくいってない、どうしても吠えたりする子の場合は人と動物が半壊した家の2階に戻って暮らしたり、動物だけを自宅に置いてえさをやりに通う。また、お金のある人なんかは、仙台なんかは被災がないほうなので、そこに移住するなんてこともありました。【スライド18】

こういう看板、ポスターが非常に多く張られていました。ここは良心的なところでした。でも、そうでなくて連れ去っていくような保護団体もありました。できれば、保護した場合は警察に届けると、そういうことが必要なんじゃないでしょうか。【スライド19】

動物を連れて帰られた方は在宅避難ということになります。そういうことで在宅避難者も巡回し、また、こういう家の中でも2家族、8頭の動物がいるわけです。こういうところでも、在宅避難としてやっぱりやっていかざるを得ないというような実態もありました。当病院の場合は被災後5日目から診察を行い始めたわけですが、長靴を履いて飼い主が水の中ゴールデンレトリバーを抱きかかえて連れてくるということがありました。動物病院はやっぱりパブリックだということで、できるだけ早く病院をあけて、患者さんの動物を見てあげることは必要なことじゃないかと感じました。【スライド20】

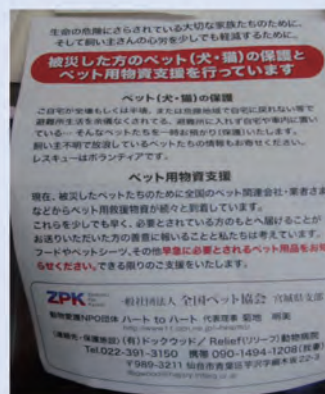
それ中で結構多いのが、今回の場合は外傷から来る膿瘍や敗血症、多くが亡くなっていきました。また尿毒症や糖尿病、こういう病気が非常に多かったように思えます。今回の被災ではカメも被災し、あとフェレットも被災し、ウサギなんかも被災を受けております。この子はビッグバンという避難所でアイドルだったんです。ところが急に状態が悪くなって、僕らが行ったときにはこういう状態で寝かされていました。子宮蓄膿症と診断し無料で手術を施し、今でも仮設で元気に暮らしております。【スライド21-24】

協定書に基づいて、22日から1週間こういうセンターをつくりました、まずは。それまでには避難所の巡回

避難所から動物が減る理由

- ◆ 動物愛護団体に動物たちを渡す
多くが県外に保護される
- ◆ 動物たちと共に半壊した自宅に戻る
- ◆ 動物たちだけ半壊した自宅で飼う
- ◆ 仙台などの被災地以外に移住
- ◆ 車中で暮らす

【スライド18】



【スライド19】

被災地巡回



【スライド20】

被災動物



震災後 5日目に運び込まれたゴールデンレトリバー

【スライド21】

被災動物の疾病

- ◆ 外傷→膿瘍、敗血症
- ◆ 猫:尿毒症、糖尿病、
- ◆ 子宮膿症
- ◆ 肺炎
- ◆ FVR
- ◆ FLUTD
- ◆ 中毒
- ◆ 衰弱



震災後 6日目に運び込まれたシーズー

【スライド 22】

被災伴侶動物に対する救護活動



宮城県獣医師会
支部ごとに支援



仙台市獣医師会からのサポート

【スライド 26】

被災かめ



動物救護センターに運び込まれたカメ

【スライド 23】

はしているわけですが、この日になったという理由は電話が通じ始めたのが10日後からなんです。だから、20日、21日ぐらいから携帯がつながり始めて、その中でもソフトバンクが一番早くつながって、次、au、ドコモという順で、ドコモは最後まで余りつながらなかったという実際的な話もあります。この支援としては、大崎から獣医師が来られたり、仙台からもどんどん救護センターにサポートが来られたのは大変助かりました。【スライド 25-26】

センターの役目としては、一般的な保護と一時預かり、そして無料でペットシートを配布したりフードを

避難所での発病



河北町 ビックバン避難所

【スライド 24】

石巻動物救護センターの役割

- ◆ 被災動物の保護と一時預かり
- ◆ 保護動物のマッチングや所有権放棄された動物の譲渡
- ◆ フードやペット用品の無料配布
- ◆ 無料診療及び去勢・避妊手術
- ◆ 動物情報の一元化
- ◆ 同行避難が行われている避難所・仮設住宅への巡回
- ◆ 地元被災獣医師の復興の為

【スライド 27】

石巻動物救護センター(第1期)



3月22日～28日まで、石巻農機センター倉庫にて活動開始

【スライド 25】

ミーティング



4月上旬 あべ動物病院にて

【スライド 28】




ミーティング

4月上旬 あべ動物病院にて

【スライド 29】

動物救護センター立ち上げ

- ◆ 用地確保
- ◆ プレハブ、ビニールハウス確保。
- ◆ ネット上に公式サイト立上げ。ボランティア募集、義援金受付、ニーズリスト、活動報告。
- ◆ ライフラインの確保
- ◆ 企業による社会貢献の場を提供
- ◆ 地元被災獣医師の救済



【スライド 30】



石巻動物救護センター(第2期)

4月2日～宮城県東部下水道事務所敷地内

【スライド 31】



トレーラーハウス内シェルター

アイリスオオヤマ寄贈(島村麻子アニコム)

【スライド 32】

配る、無料の診療、去勢避妊手術を無料で行いました。夜はあべ動物病院が仮事務所となり、みんなでミーティングをしながらこれからの救護活動を考え、1週間で1期のセンターは閉めたわけですが、やはり被災がひどいということでした。しっかりしたシェルターを持ったものをつくらなくてはならないということで、みんなで話しあいました。終わった後はこうやって食事をすると、それも楽しいなと思いながらやっておりました。

【スライド 27-29】

センターの立ち上げにまず用地確保。ところが用地がまず見つからないんです。すべての用地にライフラインがない所ばかりです。だから、こういう発電機なんかが必要になってくるし、あとプレハブは、石巻にあるプレハブの7割が流されて3割しか残っていません。残った3割のプレハブはすべて流された会社の方たちが使われたので、われわれはトレーラーハウスを最初使い始めました。ネット上にボランティア募集することは非常に有効でした。企業は社会貢献の場として頑張ってくれました。【スライド 30】

このようなことで4月2日から2期石巻動物救護センターを設置しました。この理由としては、避難所の多くは動物可でしたが、2次避難所というのが4月20日から始まり、これは学校が始まるので動物が置けなくなった為でした。仮設住宅は、実は石巻市の職員の30%が亡くなり、市の機能をかなり落としていたにもかかわらず、3月、4月の段階で仮設住宅は動物の条件をつけていなかったため、仮設住宅完成までの間、我々は動物を保護しようということで、センターを立ち上げました。【スライド 31】

まずケージがないので島村麻子氏にアイリスオーヤマへ電話、即座に、100のケージを無料でいただいたりしてありました。非常に助かりました。J A H Aからもプレハブが寄贈されました。こういう団体による寄贈という仕方は、これからの避難所では非常に大事じゃないのかなと思っております。あとは、日獣大ケネルクラブからもプレハブの提供がありました。これらをもとにボランティアのインフラ担当が、こうやってどんどん増設していきました。そういう形によって増設をして、140頭ぐらいを常時扱うような格好になっていきました。【スライド 32-34】

扱った140頭のうちの犬と猫の比率は1対1で、一時預かりが7割、保護が3割というような状況でやっておりました。多くのボランティアたちが全国から集まり、事務や物資、インフラ、医療班に分けて仕事を分担しておりました。物資も各地、神戸からもたくさ

JAHA寄贈



【スライド 33】

ボランティアの仕事

事務
物資
インフラ
犬班
猫班
獣医医療



トレーラーハウス内診療所

【スライド 37】

日獣大ケネルクラブ寄贈



【スライド 34】

物資も次々と届く



【スライド 38】

センター増設



ボランティアによる作業

【スライド 35】



【スライド 39】

多くの真面目なボランティアが集合



【スライド 36】

んいただきました。このようにしてどんどん、こういうものに詰め込んでみんなに配布しておりました。この2期センターの場所は綺麗な芝生が周りであって、こうやってボランティアが犬を散歩するのも非常に良い環境でしたが、当初から3カ月という条件がついていましたので、移転せざるを得ないということがありました。【スライド 35-39】

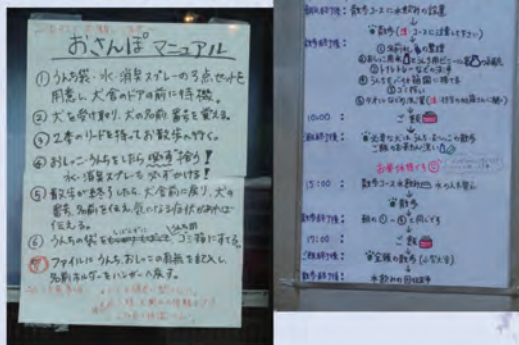
センターで実施したことは無料避妊去勢手術の実施、狂犬病予防、ワクチン接種です。また被災地にはノミ・ダニが非常に発生しますのでその予防。また、マイクロチップというのは、マッチングをするには非常に

センターの実施事項

- ◆ 避妊・去勢の実施
- ◆ 狂犬病などのワクチン接種
- ◆ バミ・ダニ駆除
- ◆ マイクロチップ
- ◆ フィラリア検査・ウイルス検査
- ◆ しつけ方

【スライド 40】

マニュアルは壁に



【スライド 41】

石巻動物救護センター(第3期)

県土木事務所用地



【スライド 42】

動物救護センター診療所



日本獣医生命科学大学の先生方のサポート

【スライド 44】

ボランティア宿泊所

東北電子工業株式会社



【スライド 43】

移行上皮癌のライドくん



日本獣医生命科学大学付属病院にて



入院後50日

【スライド 45】

大事なものなので、こういうものをぜひ入れていただければというふうに感じておりましたし、また、お預かりした動物には、すべて企業から提供されたマイクロチップを入れておりました。【スライド 40】

ボランティアは毎日五、六十人ぐらい集まっていたわけですが、人が多くどうしても一定の動きができないので、壁にマニュアルを張って1日の管理をするというような格好をとっておりました。【スライド 41】

7月からは県の土木事務所の用地を借りました。橋の下というのは非常によろしくて、雨からボランティアも犬も守ることができるし、日差しからも守れるので、非常に良いところだったなと思っております。

【スライド 42】

また、東北電子からは、ボランティアが三、四十人泊まれる場所を無償で提供していただきました。感謝しております。【スライド 43】

日獣大からは9名の先生たちが輪番でセンターに来ていただき、診療をしていただいたのは大変ありがたかったなと思っております。【スライド 44】

中には、このライド君というのは、日獣大臨床病理の先生が来ている間に鼻出血があって、調べたら移行上皮癌と診断され、余命は90日と宣告されました。こ



【スライド 46】

センターの問題点(其の一)

- ◆ ネコウイルス性鼻気管炎
 - ◆ 犬: ストレスによる下痢症
 - ◆ 犬へのストレス
 - 攻撃性増加
 - 恐怖心増加
 - 社会性低下
 - 譲渡性低下
- シェルターメディスン導入
(群管理獣医学)

【スライド 47】

センターの問題点(其の二)

- ◆ 初めに被災地に来る獣医師
 - ⇒ ヒロイズム
 - 地元獣医師 → 被災
 - 自分の動物病院の診療
 - シェルター内の動物たちと多くのボランティア
- ↓ 人質化
- ◆ ニートの有償化(スタッフ)
 - ⇒ シェルターワークの低下
 - マイシェルター形成

【スライド 48】

センターの運営指導

- ◆ 神戸市獣医師会
- ◆ 兵庫県獣医師会
- ◆ 新潟県獣医師会
- ◆ 日本獣医師会
- ◆ 日本動物病院福祉協会

【スライド 49】

の子を大学病院に連れて行き、無料で放射線療法をやっていただきました。50日後に飼い主さんのところへ帰ったわけですが、非常に元気でラッキーライド君と言われていました。今でも元気に生活しています。非常によかったかなと思っております。【スライド 45】

9月中旬にはほとんどの仮設住宅ができたのに伴って、センターの動物たちが減っていきました。よって、10月6日をもって閉所するということになりました。実際的には数頭、地元の各獣医さんが預かって帰りを待つということがありましたが、飼い主、里親のところへすべてが行ってくれたのは我々にとっては幸せだったと思っております。【スライド 46】

センターにおける問題点は、第一にやはりワクチンを打ってない猫ちゃんが多いということで、ウイルス性鼻気管炎の流行がありました。重症なものは地元の各動物病院がお預かりして、入院点滴をして治療しました。またストレスによる下痢が多くありました。幸いなことに犬パルボの症例は出なかったのでありがたかった。猫はプレイルームをつくっていたのでストレスは少なかったように思えます。犬へのストレスというのはなかなか大変で、これが攻撃性の増加や恐怖心を増加させ、これによって咬傷事件が増えました。これにはシェルターメディスンの導入が必要で、しつけのトレーニングが大事なのではないかと考えておりました。【スライド 47】

神戸でも新潟でも同じような震災があったわけですが、多分同じことがそれぞれに起こっているんでしょうね。こういうことに対してのアドバイスというのは実は神戸の先生からいただきまして、最初に来たボランティア獣医は、早く返せということを4月の時点で指示されていました。そのときは何のことかわからなかったけど、初めに来た獣医師がヒロイズムに駆られはじめ、僕らは被災した病院もあるということでセンターに手を出せないと、動物たちとボランティアの方たちを人質化して、自分の思うが儘にやり始めました。地元の獣医さんたちは、「あんたたちは来れないでしょう。来なくていいから、私がやるからお金と指揮権を全部おれによこせ」ということを言い始めました。これは非常によろしくないことに思えました。

また、その信者であるニートたちの有償化というのもシェルターワークの低下とマイシェルター化を促進するというので、問題が大きくなりました。ボランティアを咬む犬を治そうと酪農大の内田先生が躰をすると、「厳しいしつけをしないでください」と、何も知識のないスタッフが言うわけです。しつけをしないが

ために咬むような事象がふえたわけです。マイシェルトーをつくらずに、オープンにしてよりよいセンター運営ができるようなシステムをつくらなければならないと思いました。

石巻でセンターがうまくいった理由の一つは、先人たちの御指導です。各被災地では同じことが起こる様です。その適切な指導というのは非常にありがたかったなと思います。また、いろいろな相談に乗っていただけたのには本当に感謝しております。【スライド 48-49】

現在は、仮設住宅動物支援ということをやっております。【スライド 50】

最後になりますけども、提言ということで、やはり我々がやらなければならないのはまず入院している動物たちを守ることと、それから動物病院の近所の避難所から救援を差し伸べていくということです。それが大事に思います。また、フードというものが当初どうしても来ないんです、被災が酷くても平等に同じ量しか来ない。やはり平等という不平等を正さなければならないと強く思います。センター運営に関しては災害時動物ボランティアコーディネーターの養成、これが大事のように思います。近隣には宮城内科クリニックがあります。ここでは日精診という協会のコーディネーターが毎日9人のボランティア医師が絶えず来るようにコーディネートしていました。地元の宮城先生は苦勞なく、受け入れていました。そのようなセンターづくりができれば地元の獣医師は楽になるのではないのかなと思います。

データベースの蓄積の必要性ということですが、より公的な場所で、データベースを蓄積するというのがやはり大事なんじゃないかと思います。これは幾つかの理由があります。

平等という不平等。義援金も日赤や動物救援本部に送ることがベストなのかということです。なぜかと言うと、平等に配分します。すると、被災してひどいところにも平等になります。ということは、我々にとっては不平等です。平等という不平等に陥らないように支援していただきたいと思います。例えば、今福島動物救護センターは困っています。そのときに、福島県にお金を出すのではなくて、動物救護センターづけとタグをつけて義援金を送るわけです。ピンポイントの支援というのが非常にありがたく、良い支援になります。【スライド 51】

石巻では大体1万2,000頭ぐらい狂犬病の登録している犬がいたわけですが、その3割4分が亡くなっているようです、4,000頭です。でも、これに載ってな



【スライド 50】

被災地の提言

- ◆ 震災直後、入院動物の避難
- ◆ 動物病院周辺の避難所へ
- ◆ フードなどの要請
- ◆ 動物救護センター
 - 災害時動物ボランティアコーディネーター養成
 - 群管理獣医師及び群管理動物看護師の育成 (シェルターメディスン)
- ◆ 仮設住宅動物支援 (Annプロジェクト)
- ◆ データ・ベースの蓄積の必要性
- ◆ 被災地における「平等という不平等」

【スライド 51】

被災犬の推定頭数

管内	世帯数		100世帯あたりの頭数	全世帯数	被災推定犬頭数	被災犬の割合
	H23.3.31	H23.3.31				
仙南保健所	65,034	15,778	24	97	24	0.1%
塩釜保健所	69,892	10,952	16	3,361	527	4.8%
(岩沼支所)	58,634	11,488	20	8,180	1,603	14%
(黒川支所)	28,831	6,539	23	104	24	0.4%
大崎保健所	71,242	14,317	20	798	160	1.1%
栗原保健所	24,610	6,656	27	55	15	0.2%
登米保健所	26,384	6,856	26	186	48	0.7%
石巻保健所	79,446	12,415	16	27,745	4,336	34.9%
気仙沼保健所	31,943	4,448	14	11,684	1,627	36.6%
計	456,016	89,449	20	52,210	10,241	11.4%

*被災犬:家屋の全壊により被災前の状態を逸失(死亡・居住移転)した犬

【スライド 52】



【スライド 53】

い猫、ましてや登録をしていない犬がいるわけですから、一体どの位の動物たちが亡くなったのかなと思います。【スライド 52】

多くの人々と動物たちが亡くなったことに哀悼の意を表して、講演を終わらせていただきたいと思います。御清聴ありがとうございました。

○藤田座長

阿部先生、どうもありがとうございました。

ちょうど1年たったところではありますが、やはり生々しい。すべての話がちょっと心にぐっと来るようなお話ですし、最後のほうにお話がありましたけれども、獣医師の方々も被災されているという中で何ができるかということは考えさせられました。僕らメディアの人間は簡単に“極限状態”と書きますけれども、じゃあ実際にその中で人間として何ができるか、あるいは動物がどういう役割を社会の中で果たしてくれるのか命題に対する、大きな犠牲を払った上でのことではありますけれども、一つのモデルケースとして今後に生かしていけるお話 شدということが、非常によくわかったと思います。どうもありがとうございました。

もし现阶段で先生に何かどうしても聞いておきたいということがあれば、挙手をお願いします。

じゃあ、そちらの方。

○質問者

いつも知りたかったことなんです、動物なんですけれども、最初に亡くなった動物の中の比率なんです、人間のように津波に流されて亡くなったのか、それとも生き残ったんだけど、先生がおっしゃられたようにストレスによる病気ですとか、そういうもので亡くなっていったのか、どちらの比率のほうが多いんでしょうか。

○阿部俊範

今回の震災で、猫は外に飛び出して逃げるか部屋の隅に隠れるので、なかなか同行避難しづらいようです。それで家にいて流されちゃう場合というのが多かった様です。ただ、犬の場合に関しては、人が亡くなるような状況だと犬も亡くなる様です。人が助かるような状況だと犬も助かる率が多いようです。今回多かったのは、人が助かって犬が見つからないときに、多くの犬は助かっているんだけど、保護されて県外に連れて行かれる。そうすると飼い主が探しても見つからない。

だから、動物を保護されたときは必ず警察に届けるとか、もしくは僕らはセンターに届けてもらって情報を一元化するというのはそういうことです。そういう

ことをしていただければ早く飼い主のところへ戻っていただける。なお連れていった方はそういう連れていったという情報をネット上につまびらかにすることはして貰いたい。家族一員なんですから黙って持っていくことはしないように。石巻で育った動物は石巻で育つのが一番幸せなわけですから、だから連れていくときには届けを出すようにということを各団体には言いたいなと思っています。そのためにセンターをつくったということでもあるわけなんです。

今言ったように、質問がちょっと変わっちゃいましたけど、大体僕らが入れなかった10日以内に亡くなる動物は、亡くなっているようです。全身傷だらけになって。今言ったように人が助かっている状況だと動物も助かっている場合があるので、それらを何とか我々ができるだけ病院を早く開けて、治療、助けてあげる。水も出ない、電気もないけど、そんなことは言っていられない。死ななくて済むようにとは思ってやっておりました。こんなんでよろしいでしょうか。

○藤田座長

よろしいでしょうか。

先生どうもありがとうございました。

続きましては、同じ石巻の阿部病院で働かれている、奥様でいらっしゃるんですけども、阿部容子先生に、震災の現場から動物たちとともに生き延びるためにどのような努力をされていらっしゃるかという話を伺いしたいと思います。それでは先生、よろしく申し上げます。

